


中年でも 恋がしたい!

成年向け







■ おっと大事なと言うの忘れてた！この度は俺なんぞの本を手にとってくれて本当にありがとう！それでは、「中年でも恋がしたい！」はじまるわー！
レヴコー-!!

■ はじめましての方、はじめまして。そうでない奴等、オッス！グレート魔神です。ん……そうでない奴等の訝しげな顔が見えるぞ。「いつもの小汚い手書き文字はどうしたんだ？」といった感じの明らかな戸惑いの顔が。確かに俺は、前回の夏コミの本で「こういう形態で本を作る限りは手書き文字を続けることをここに誓う！」みたいなことを言った様な気がしなくもないんですが……まあね、ぶっちゃけてしまおうね、もう時間が無いんですわ。まだまだ新兵器「CLIP STUDIO」の上でテキストを打つ事自体が全くの手探り状態なので、この作業が時間の短縮に繋がるのかと問われれば、かなり怪しい感じなのもまた事実。まあここは未来の自分への投資だと思って一丁頑張ってみようかなと思ってこうしておっかなびっくりでキーボードをポチポチやっている訳なんです……

■ さて今回、表紙の使用を少し変えてみました。まあいつもならコピー誌で表紙をカラーにする時は表紙と裏表紙を繋げると、横長の一枚の絵になる様に描いていた訳なんです。よ〜く考えてみたらさあ、普通、本なんて1人一冊しか買わない訳ですよ。それを自己満足のために貴重なカラー一分をあんま見ることもない裏表紙に使っちゃうのは

いくらなんでもちょっともったいないなという事に今更ながら気付きました。だったら何かしら有効な使い方は無いもんかと思案した結果、いつもいつもエロ成分が足りない本作りな事を反省して、いっちょストレートなエロいイラストをバァーン！と載せちゃおう、なんかカラーピンナップみたいでカッコいいじゃん！コピー誌だけだな……とか何とかもそそ考えてこんな感じになったとさ。
エッヘー



■モリガンのいつものコスチュームでは絶対になり得ない、それでいて俺が大好きなシチュエーションに下乳というのがあります。最近ネット上で知った表記として「南半球」というのがありまして、そのあまりにも秀逸なネーミングセンスに「なるほど！」と膝を打ったものですが、その南半球、いざ描いてみようと思うとこれがなかなか難しい。せつかくだから乳輪もはみ出させちゃおうかね、ついでだし乳首もチラッと見えちゃうのも良いかもね、とか何とか思いながら描いてみると思いのほかエロい感じになった！やっぱ南半球は良い！

■乳輪が大きいのが好きです。ひとむかし
前だと、あまり大きい乳輪はなんだか品
が無くて嫌だなあ、とか(タテマエ上は)
思っていたけど、最近ではそんな感情
無い。そもそもエロに上品も下品も
いや、むしろエロなんてのは下品な
そう思った時、自分の中で何が
した。昔のエロ漫画とか見ると、そ
れなりに大きなおっぱいなのに(それでも昨今ネット上に溢れている物に比べ
たら極めて常識的な程度の大きさなのだが)そこにくっつ
る乳輪を含む乳首は、なんともまあ可愛い感じの「ちょこ」っ
とした上品なものばかり。乳首が出っ張っているだけで、乳輪の膨らみも無い。
よくまあ、当時の俺はこんなもんで股間を熱く硬くしておったものだなあ…としみじみ
思うも、これはこれで、こういう時代だったんだから仕方がないと言え仕方がない。

は敬座も
無いのだ。
モンなのだ！と
変わった感じが

■最近、乳輪の大きさは、そのおっぱいの大きさに比例するのではないかと考えるよ
うになった。元々の女性の乳輪は皆同じくらいの大きさであり、おっぱいが大きく
成長することによって乳輪も皮膚に引っ張られる様に大きくなるのではない
だろうか。以上の推論から察するに大きなおっぱいの大きな乳輪は、
引っ張られて大きくなった分、色素が薄くなると考えられる。
まー要するに俺は大きくて色が薄めの、ぶっく
りしたパンケーキみたいな乳輪が大好きって話
なんです。あ、ちなみに乳輪がぶっくり
してる状態のことを「乳暈(にゅううん)」
っていうらしいぜ？
エロ小説知識な。






■ホルスタイン柄の衣装はエロい。反則的にエロいと思う。普段、モリガンのコスチュームはいつものもの以外は認めない！とか鼻息を荒くしておる俺ですが、ことホルスタイン柄の衣装となると話は別である。ホルスタインとは乳牛という、読んで字の如く、乳を搾ることを目的に品種改良された家畜なのだ。何て言うんだろうな…もうこの「乳を搾ることを目的に品種改良された家畜」という一文だけでかなり興奮してきちゃうんだよ！もうね、ここまでくるとね、「ホルスタイン柄の衣装がエロい」とかじゃなくて、もう「ホルスタインってエロいよね！」と言ってしまっても良いんじゃないだろうか。牛だけど。白地に黒の斑模様の子牛のおなかにぶらさがった薄ピンク色の大きな乳房、その中にミルクがたぶたぶんに詰まっているんだということを容易に想像させてくれる。そしてその乳房から突き出た4本の太く長い乳首。ここから上手く搾ればちよつとしたうどん位の太さでミルクが出てくるらしいじゃないですか！あーいかにいかに、なんかもうやたらとムラムラしてきちゃったぞう！えーつと…何が言いたかったかというどな…あーそうそう、結局ホルスタインってエロいよね！しか言ってなかったや。まあとにかくだ、そのエロいホルスタインの特徴的な体の模様をあしらった衣装がエロくないはずがないのだ！これを着ることによって、なんとなくそのおっぱいからは母乳が搾り取れるのではないだろうかという錯覚に陥るといった効果も期待できるだろう。こうやって改めてテキストに起こしてみると、ホルスタイン柄の衣装が如何に反則的なものなのかが解って頂けるのではないだろうか。


■ここ最近では、もうホルスタイン柄、というだけで条件反射的にエロく感じるようにすらなってきた。ホルスタインそのものをエロく感じる処から始まり、もう白地に黒の斑模様なら何でもエロく見える様な感じと言えば良いのだろうか。具体的に言えば101匹ワンちゃんて有名なダルメシアンという種類の犬でもな〜んかお股の辺りがむずむずしてきちゃうような気がしなくもないし、果てはウルトラセブンに登場した宇宙怪獣エレキングですらもなんだかエロいような気がしなくもない。

と、思ってダルメシアンやエレキングの画像を改めて見てみると、確かにではあるんだけど…やっぱぜんぜんホ違っていたのであった。なんかちよつと

白地に黒い模様ホルスタイン柄とは残念かも…。



■ふたなりについて少し語ろうと思う。これは色々な所で言ったり書いたりしてきた事なんだけど俺はその昔、ふたなりがあまり好きじゃなかった。よくふたなり嫌いな人の言い分
で、気持ち悪いというのがあるけど、そうじゃない。まず、俺は女の子同士の絡みあまり好きじゃない、という点が挙げられる。俺の頭の中には、「ふたなり=レズの延長」みたいな公式が出来上がってしまっていて、その考えを払拭できなかったのだ。そして、もうひとつの理由として、俺がペニスが好きだという事。あ、いやいやいや勘違いしてもらっちゃ困るよ？天地神明に憑けて言うが、俺は決してホモじゃないから！っつーか自分でどう思うくらいの女好き(二次元限定)だから！この場合の「好き」っていうのは、俺で言うところのロボットや怪獣と同じベクトルでの「カッコイイもの」としての「好き」ってことなんです。で、その大好きなペニスは俺の身体にも付いている！こんな誇らしい事は無い！そう思っていた俺にとってふたなりってのは、何か大事な物を奪われてしまった感覚すらあって、正直あまり気分の良いものではなかったのだ。が！そんな俺にも転機が訪れた。今までふたなりと言えばレズの延長の攻め役としか捉えていなかった俺が、遅まきながら「受けふたなり」の存在を認知してしまったのだ。何もペニスは穴に突っ込む為だけの器官ではないのだ！っ
一か俺自身が
ぜんぜん穴に突っ込んで
ないっつ
一の。そうだよ！ペニスは基
本的にシゴクもんなんだ
ってばよ！そんな訳で
ふたなりは良い！
好きだ！



■妊婦をエロい目で見るのは何かすごくいけないことをしているような気分になる。いきなり「妊婦」と呼び捨てしてしまったが、やっぱり「妊婦さん」とさんを付けて呼称しないといけないような気がしなくもない。何と言うか、俺的には結構神聖な存在なのだ。が！エロい。やはりどうあっても妊婦さんはエロいのだ。そう感じてしまう自分の感情に嘘はつけない。そこで、ここでは何故そもそも妊婦さんをエロ目線で見てしまうのかということについて少し考えていきたい。

■まず挙げられるのが「何をどう言った処で中出しセックスをした後の女性である」という点だろう。ここ最近のエロ界隈では、やたらと「孕む」だの「中出し」だの「子種汁」だの「種付け孕ませセックス」だの直接的に妊娠を連想させるワードを見かけるようになったように思う。その外観からダイレクトに伝わってくるセックスの生っぽさを逞しく妄想することこそが重要なのではないだろうか。そして、もうひとつの点として、赤ちゃんを授かった証である「大きなお腹」の見た目そのものをエロく感じる、というタイプがある。俺はどちらかと言うと後者になるのだが、これともすればデブ専の延長とも捉えられるかもしれない。中には本当にそういったベクトルで好きという方もいるだろうけど、俺の場合はそうではない。俺にとっての妊婦さんの大きなお腹は、言うなれば第3のおっぱいなのだ。胸の前に迫り出した二つの大きな丸に対して、その下方中央でもうひとつのより大きな丸が何とも見ていてバランスが良いのだ。いや、エロいのだ。勢いで「第3のおっぱい」とか言っちゃってどうしたもんかと密かに思っていたりもしたのだが、こうして改めて考えてみると我ながらなかなか良い事と言ったのではないだろうか。いや、そんなわけねーか……。

■今回、初めて妊婦さんを描いたんだけど…何と言うか、アレだな。やっぱり想像でモノを描くもんじゃないなあ、という事が身に沁みたよ……。どういう構造になっただのかわかんないもん。



■さて、今回ついに手書き文字の呪いから解放され、文明の最先端技術を駆使した美しく読み易い文字を…あ、いやいや、そういえばいつもの手書き文字も文明の最先端技術を駆使しているという点では、活字テキストを打ち込むよりも遥かに上だったっけな…いやいやいや、そんなことはどうでもいいんだ。見てくれ！この美しい文字を！今や全ての作業をPCの上でやるようになり、シャーペンや消しゴムとオサラバした俺ですが、にもかかわらず、相変わらずどこからどう見ても手描きの頃に出していた同人誌とあまり変わり映えのしない感じの本になっちゃっていた最大の原因であると思われる「小汚い手書き文字」。あれはあれでグレート魔神らしさのひとつだと言って下さる方もいらっしゃった訳なんですけど、でもやっぱり何かしたかったんですよ。文章用の行スケールを制作して、それに合わせてペンタブレットを使ってなるべく丁寧に文字を「描く」という作業は想像以上に大変なものなんです。解らない漢字があればメモ帳を開いてテキストを変換し、それを見ながら「描く」。本来ならメモ帳で打ち込んだ時点で終わってるはずの作業を、そこから結構な時間と労力をかけて、いくら丁寧に書くのが出来上がるのが小汚い手書き文字じゃあまりにも浮かばれない！そう思って今回、思い切ってCLIP STUDIOのテキストを打ち込む機能を使ってみた訳なんですけど、正直かなりの賭けでした。PC購入当時の、キーボードを右手の人差指だけでポチ…ポチ…と押していた頃の俺ではない。今となってはブラインドタッチとまではいかないにしてもそれなりの速度でキーボードを叩けるようにまで成長した俺ならば、触ったことのないツールの使い方を覚えるところからスタートするという事を差し引いても、それなりの時間短縮が見込めるのではないかと、ひょっとしたら時間短縮どころか大幅に時間を食ってしまい、最悪、会場で土下座みたいな結果になってしまうかもしれないが、まあそんな時はそんな時だ！と半ば見切り発車的に作業を進めてみると…これがなかなか上手くなった。最初は操作していいのかもわからん様な手探り状態だったが、1ページ打ち終わる頃にはもう大体の操作方法はなんとなく理解できたのだ。いやあ、やっぱり何でも触ってみたいとわかんないもんだね！こうして覚えてしまえばそこからは早い早い！時間にして約5倍のスピードで文面が上がっていくではないか。「5倍はいくらなんでも盛りすぎじゃね？」と思われるかもしれないが、いやいや、それだけ今までの作業が無駄に時間のかかるモンだったって事なんです。1ページ辺り3~4時間くらいかかってましたもん。とにかく、綺麗な上に早い、更には肉体的な披露も緩和できちゃうなんて素晴らしい。こんな事ならもっと早く導入するべきだったなあと今にして思うわ…って！調子に乗ってパシパシ打ってたらもうこんな所じゃねーか！奥付書くスペースがなくなっちゃったぞ…。まあいや、裏表紙にでも書いておきな。

■それでは！今回はこの辺で筆を、いやさ、キーボードを置くとしますかな。こんな所まで読んでくれて本当にありがとう！では、また会う日まで！ シューー♡

■はい、お疲れ様！あとがきです。…いや、わかってますってば、タイトル詐欺なのは。いやいや、それでも作業開始当初はまだ今期大ハマリした「中二病でも恋がしたい！」に関するネタを少しでも絡めてみようかな等とっていたり、そうじゃないにしても、歴の中年が20年近く恋焦がれ続けた想いの文を延々と書き綴っていくといった内容にする予定が無かった訳ではないのだ。それが、どこで何をどう間違ったのか、またもや俺の性癖を暴露するだけの内容の本になってしまったと、そういうわけです。

■しかし、最近ではインターネットのおかげで、それまでとは比べ物にならないくらい多くのエロい画像が拝めるようになりました。例に漏れず、俺もそうした画像をシコシコ集めておるのですが、本当に世の中は広い。まだまだ俺の中に眠る新たな性癖の扉を次々に蹴破っていくと同時に、ひとむかし前だったら「好きではあるけどやっぱ他人に言っちゃうのはちょっと恥ずかしいかなあ…」等とグズグズ思っているのがバカバカしくなってくるくらいに堂々と己の性癖全開のイラストをワールドワイドに発表しておられる方の多いこと。そういった環境の中で特に顕著に見られるのが「搾乳」である。もともとおっぱいなんてのは赤ちゃんに母乳を与えるのが一番の目的なんだから、ミルクなんぞ搾れば出て当然、みたいな感じに、当たり前のように母乳をびゅーびゅー噴出させる絵をよく見るのだ。ちょっと前までの俺だったら、それはそれで嬉しいっちゃ嬉しいけど、でも「出産もしてないのに母乳が出るようになるのはおかしい！」とか、したり顔で言っちゃっていたら。だが、さっきも言った通り、おっぱいから母乳が出るのは当たり前なのだ。もはやそこに説明はいらないだろう。10年くらい前からオタ系のエロ界隈でこうした「母乳モノ」を見るようになったのだが、当初はまだホルモン異常とか人体改造とかで、未出産にもかかわらず母乳が出るということについての説明がされている物が多かった。そこから「感じるとミルクが出ちゃう体質なの…」といった大発明を経て、近年ではもう母乳が出ることに対する説明そのものが無いケースがかなり多くなってきている印象だ。いや、これはそういった世界がおかしい！もっとちゃんと理由付けや説明をするべきだ！と言ってる訳ではない。むしろ逆だ。もう一度言うが、女性の乳房から母乳が出るのはあたりまえなのだ。そこにあーだこーだ理由を付けること自体がナンセンス極まりないことなのだ、俺は声を大にして言いたい。

■とか何とか言っておきながら、今回の本では母乳がびゅーびゅー噴出しているようなイラストは1枚も描いてなかったことには、どうか目を瞑ってやって頂きたい…。まあここでいきなりこんな事を言い出してんのも、今この瞬間に思い付いたことを行き当たりばったりで書いてたりするからなんだけども。まあその理由は、結局自分がダラダラと怠惰に過ごした結果が招いた事ではあるんだけどね。次こそはもう少し計画性のある本作りを心掛けよう、そう心に誓うのもいつものことなのであった。そしてそれをすっかり忘れちゃうのもいつものことなのであった。

NNZ付

奥付
中年でも
恋がしたい!

発行 NNZ団
者 グレート魔神
印刷 コンビニコピー!

2012年12月31日 コミックマーケット83